

- 自ら考え、表現できる人（創造）
- 仲間とともに高め合える人（共生）
- 心身ともにたくましい人（健康）

「天は二物を与えず？」・・・NO！

「文武両道」を目指してこそ、能力は発揮される

5月の生活目標は「学習を中心とした生活ができるよう計画を立てる。」でした。やる気が起きてから机に向かうのではなく、自分で決めた時間になったら勉強を始める習慣をつけるよう働きかけてきました。

5月31日（火）、6月1日（水）には、中体連岩瀬支部総合体育大会が開催されます。生徒たちは、県中地区大会、さらには上位の大会進出を目指し、この岩瀬支部大会に照準（しょうじゅん）を合わせて質・量ともに1年中で最高レベルの練習を行っています。一方で、この時期は進学・進級の緊張から解放されて、習慣が崩（くず）れがちな時期でもあります。特に、前年度よりも良い習慣が付きかけた学習面がおろそかになりがちになるために、冒頭の生活目標を掲げたのです。

「中体連の大会が終わるまでは、部活動中心の生活をさせてあげたい。」と、私たちも考えないではありませんが、5月、6月に勉強をおろそかにして過ごした生徒と、勉強と部活動の両立を図ることができた生徒との歴然（れきぜん）とした差異を私たちはよく知っています。つまり、進路の目標達成のためには、5月から6月の過ごし方が一つめのターニングポイントになるのです。



そこで紹介したいのが、水泳の北島康介選手らをオリンピック金メダルへと導いた脳医学の世界的権威（けんい） 林成之（はやし なりゆき）氏の教えです。

「学校では『勉強ができる人』『運動ができる人』などという区別をしますが、こういったことも本能に基づいた判断ではありません。本能に従えば、すべての子どもは文武両道を目指すのです。そもそも昔の人間は、食料を手にするために頭を使い、敵から逃げるために早く走らなければ生き残れなかったのです。」

つまり、「子どもは本来、文武両道に育つ」のであり、それが自然な発達だということです。そして、その自然な発達を促すポイントは、「人と気持ちを共有すること」。親でも、教師でも、友達同士でも、一緒に成長しようという気持ちで向き合い、つながり合うことだと言います。もう一つは、「何度も繰り返すこと」です。何度も繰り返すことで微妙な事柄の違いが分かり、理解や判断が的確になっていくのだそうです。

5月、6月に望ましい授業態度と、しっかりした家庭学習の習慣を身につけることは、3年生はもちろんですが、1、2年生であればさらに大きな伸びしろを作ることになります。文武両道が、人間として自然な発達で、勉強と運動の片方だけで精一杯だという取り組みは、実は大きな損をしていると考えてほしいと思います。



2年生職業講話を実施

2年生では、5月11日（水）、総合学習の時間でハローワーク須賀川の職員を招いて、職業講話を実施しました。講師の松田由美先生には、

- ① ハローワークの紹介
- ② 求人の状況（職種や求人数）
- ③ 正社員と派遣社員、フリータの違い

などを踏まえて、中学・高校時代に何をすればよいのか、お話しいただきました。

世の中の状況を理解したうえで、自分の将来を展望（てんぼう）し、目標や夢の実現を考えながら「今」を大切に生きようとする態度を育てる、絶好の機会となりました。

2年生は、8月22日（月）、23日（火）に行う職場体験の事前学習に入りました。この職業講話が有意義な職場体験につながるよう、指導の充実を図ります。



1年生ムシテック・ワールドで体験学習



5月18日（水）、1年生はムシテック・ワールドで体験学習を行ってきました。4つのクラスを3つに再編成し、①ガスバーナーを使おう ②水生生物観察 ③たのしい静電気、の3講座をすべて体験しました。

また、上の写真は全員で参観したサイエンスショーの様子です。物体は外から力を受けないかぎり、現在の運動状態を続けるという性質があります。これを「慣性（かんせい）の法則」といいますが、ゲーム的な実験に参加し、「慣性の力」を実感することができました。

この日は好天に恵まれ、テラスで思い思いにグループになって弁当を食べました。一人一人の表情が実に楽しそうでした。

ご家庭でもシートベルト着用の促進を

6月は「シートベルト着用強化月間」（6／1～6／30）です。シートベルトの着用は、昭和46年に義務化され、昭和60年に罰則が強化されました。「シートベルトをしていれば・・・」そんな交通事故が未だに報道される時があります。

福島県及び福島県交通対策協議会では、6月1日（水）から6月30日（木）までを「シートベルト着用強化月間」とし、後部座席を含めた全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底を呼びかけています。運動の趣旨に則（のっと）って学校でも次のように取り組みます。

- 1 シートベルトとチャイルドシート着用の必要性・効果について説明し、後部座席を含めた全ての座席で正しく着用するよう指導します。
- 2 学校の行事等で児童生徒を乗車させる時は、シートベルトを正しく着用させます。
- 3 子どもから家族に対し、シートベルト着用を呼びかけるよう働きかけます。

小さなお子さんのいる家庭では、子どもの体格にあったチャイルドシートを正しく取り付けて使用するとともに、シートベルトとチャイルドシート着用の必要性・効果について話し合い、後部座席を含めた全ての座席での着用を習慣にしましょう。

この期間をきっかけにして、このような取り組みをすることが、子どもたちが将来、自他の生命や身体を尊重し、高い交通安全意識を持ってハンドルを握るようになり、万一の交通事故発生時にも被害の防止や軽減を図ることにつながるのではないのでしょうか。